

## ■ 本文

※③は『古今和歌集』、①は同集所収の在原業平詠、⑥は『徒然草』からの引用です。

②④⑤⑦は趣旨参考として添えた他出の和歌で、「まし」の検討対象には含めません。⑧～⑩は学習用のオリジナル例文（擬古文）です。

① 世の中にたえて桜のなかりせば春の心はのどけからまし（『古今和歌集』在原業平）

② 思ひつつ寝ればや人の見えつらむ夢と知りせばさめざらましを（『古今和歌集』小野小町）

③ 鏡に色・形あらましかば映らざらまし（『徒然草』第二百三十五段）

④ もし雨降らましかば、出でてゆかざらまし。

⑤ この酒を一人で飲ましか、それとも友を待たまし。

⑥ いざ、いかにせまし。今宵帰らましや、とどまらましや。

⑦ その人ありせば、かく心細くはあらざらまし。

⑧ 春の花さかざらましかば、世の人かくも心ときめかざらまし。

⑨ 声立てましかば、人に聞こえなまし。されば声をぞ忍びける。

⑩ 心あてに折らばや折らむ初霜の置きまどはせる白菊の花（参考）

⑪ 月見ればちぢにもものこそ悲しけれわが身ひとつの秋にはあらねど（参考）

⑫ あはれと言ふべき人は思ほえて身のいたづらになりぬべきかな（参考）

⑬ 散ればこそいとど桜はめでたけれ憂き世になにか久しかるべき（参考）

⑭ 君なくは何ぞ身を飾らむ。物言はぬ鏡に向かひてもよしなしと思へば、いとはかなし。

⑮ いかなる契りにかありけむ、世を恨みざらましものを。

⑯ あらましごとばかり言ひて、げにと思ふことなし。

## ■ 設問（全21問）

1. 例文①の「のどけからまし」について、この文全体が反実仮想であることを示す構文上の手がかり（接続助詞を含む部分）を、本文中から抜き出せ。
2. 例文①「春の心はのどけからまし」を「もし～なら…だろうに」の形で現代語訳せよ。
3. 例文②「さめざらましを」の「まし」の意味（反実仮想か、ためらいの意志か）を答えよ。
4. 例文②「夢と知りせばさめざらましを」を現代語訳せよ。
5. 例文②で反実仮想を構成している「せば～まし」のうち、「せば」の部分を抜き出せ。
6. 反実仮想の「まし」が表す心情には、しばしば「実際にはそうならなかったことへの残念さ・後悔」がこめられる。例文②の小野小町の歌について、作者がどのような心情を「ましを」に託しているか、二十字程度で記述せよ。
7. 例文③「あらましかば映らざらまし」の二つの「まし」のうち、結びの主節にあたる「まし」を含む語を抜き出せ。
8. 例文③を現代語訳せよ。
9. 例文④「雨降らましかば、出でてゆかざらまし」について、次の小問に答えよ。

(1) 用いられている反実仮想の構文の型（「ましかば～まし」「せば～まし」「未然形+ば～まし」のいずれか）を答えよ。

(2) 全体を現代語訳せよ。

10. 例文⑤「飲まましたか、…待たまし」の「まし」の意味を答えよ。
11. 例文⑥「いかにせまし」「帰らましや、とどまらましや」に共通する「まし」の意味を答えよ。
12. 例文⑥「いざ、いかにせまし」を現代語訳せよ。
13. 例文⑦「その人ありせば、かく心細くはあらざらまし」を現代語訳せよ。
14. 例文⑦で用いられている反実仮想の構文の型を答えよ。
15. 例文⑦「その人ありせば、かく心細くはあらざらまし」には、話し手のどのような気持ちがこめられているか。「実際は…」という形を用いて、反実仮想であることがわかるように三十字程度で説明せよ。
16. 例文⑧「さかざらましかば、…心ときめかざらまし」の構文の型を答えよ。
17. 例文⑧を現代語訳せよ。
18. 例文⑨「声立てましかば、人に聞こえなまし」について、次の小問に答えよ。
  - (1) 構文の型を答えよ。
  - (2) 現代語訳せよ。
19. 「まし」は何形に接続するか。接続する活用形を答えよ。
20. 例文①「のどけからまし」、例文③「映らざらまし」、例文⑥「せまし」の各「まし」の、文中での活用形をそれぞれ答えよ。
21. 例文④「降らましかば」、例文⑧「さかざらましかば」の「ましか」は、「まし」の何という活用形か。活用形の名称を答えよ。